

「分析支援プログラム」を活用した効果的な取組事例（小学校）

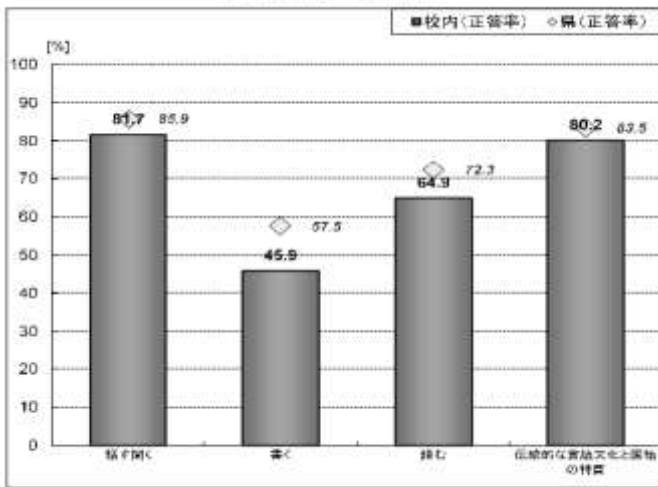
【幸手市教育委員会】

平成24年度 学習状況調査分析支援プログラム<小学校>

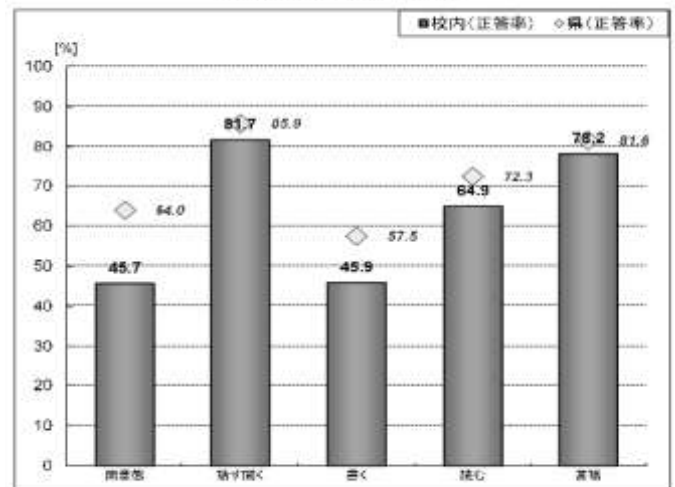
学習指導要領の内容		設問別・観点別正答率											
		問題番号	通番	評価の観点					記述式	県正答率	本校正答率	グラフ	
				1	2	3	4	5					
A	エ	1	(1)	1		○					79.9	79.5	○
A	エ		(2)	2		○					93.9	90.4	○
A	エ		(3)	3		○					83.8	75.3	○
C	ウ	2	(1)	4				○			76.9	69.9	○
C	ウ		(2)	5				○			79.7	72.6	○
C	ウ		(3)	6				○			60.7	52.1	○
C	ウ		(4)	7				○			86.7	79.5	○
C	イ	3	(1)	8				○			79.6	71.2	○
C	イ		(2)	9				○	○		64.7	60.3	○
C	イ		(3)	10				○			58.9	52.1	○
C	エ	4	(4)	11				○			73.3	61.6	○
B	ア		(1)	12			○				65.0	58.9	○
B	ウ	5	(2)	13	○		○			☆	50.0	32.9	○
伝	イ(オ)		(1)	14					○			93.7	95.9
伝	イ(オ)	7	(2)	15					○		93.0	95.9	○
伝	イ(カ)		(1)	17						○	☆	97.5	97.3
伝	ウ(イ)	8	(2)	18						☆	87.4	71.2	○
伝	ウ(イ)		(1)	19						○		92.3	93.2
伝	ウ(イ)	9	(2)	20						○	97.4	100.0	○
伝	イ(カ)		(1)	21						○		62.3	64.4
伝	イ(ク)	10		22	○					○	61.7	42.5	○
○内容別正答率の分布状況一覧													○
○観点別正答率の分布状況一覧													○

※ 4(2)は、問題に不備があったため、参考値を示しています。
外部に結果を知らせる際には、参考値は使用しないでください。

《内容別正答率の分布状況》



《観点別正答率の分布状況》



【課題】

- ・「関心・意欲・態度」と「書く力」が劣る。 <※別紙の具体的問題を参照>
- ・文章の前後から主人公の心情を読み取る力
- ・情景や心情を表す比喩的な表現力 ・説明文の構成を見抜く力（話題、事実、結論等）
- ・2つの文章を1つにしたり、2つの文章を1つの文章にしたりする力（接続語の活用）
- ・短文づくり（はじめ、中、終わりの組み立て）

【対策】

- ・物語・・・「どの言葉、どの文章からそう思ったか」文章に立ち返る。訳を大切にすると、比喩的な表現の意味やよさに着目させる。視写したり短文づくりをする。
- ・説明文・・・事実、推測、話題提供、結論等、説明文の構成の基本を教える。
- ・短作文・・・行事後 原稿用紙1/2程度（初め（何が楽しかったか）中（その訳）終わり（思ったこと、考えたこと）
- ・朝のスタディ・・・テーマを決めて短作文づくりをする。（終わったら漢字）
- ・詩の暗唱会・・・2学期（学習発表会にて）

【算数】

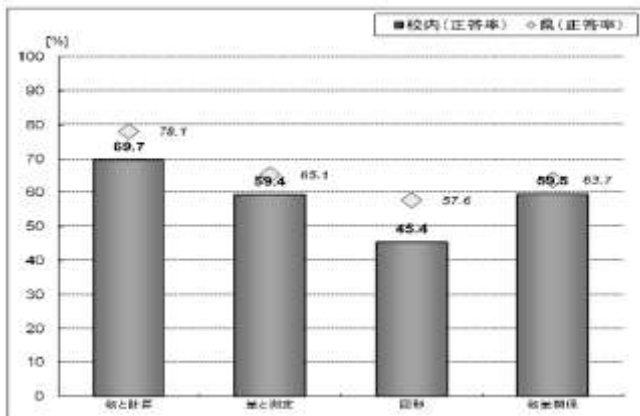
設問別・観点別正答率

学習指導要領の内容	問題番号	通番	評価の観点				記述式	県正答率	本校正答率	グラフ	
			1	2	3	4					
A 3年(5)イ	1	(1) 1			○		☆	94.8	95.9	○	
A 3年(5)イ		(2) 2			○		☆	82.8	68.5	○	
A 4年(5)ウ		(3) 3				○		☆	67.5	69.9	○
A 4年(5)ウ		(4) 4				○		☆	74.7	78.1	○
A 4年(1)ア	2	5				○	☆	92.4	93.2	○	
A 4年(1)ア	3	(1) 6				○	☆	72.1	65.8	○	
A 3年(5)ア		(2) 7				○	☆	91.7	89.0	○	
A 3年(5)ア		(3) 8				○	☆	89.6	86.3	○	
A 3年(5)イ		(4) 9				○	☆	63.1	35.6	○	
A 4年(2)イ	4	10			○	○	☆	71.1	43.8	○	
A 4年(2)ウ	5	11		○			☆	67.7	52.1	○	
A 4年(3)エ	6	12				○	☆	70.0	58.9	○	
B 4年(2)イ	7	13				○		95.1	90.4	○	
B 4年(1)イ	8	14		○	○		☆	71.4	64.4	○	
B 4年(1)ア	9	15	○		○			28.8	23.3	○	
C 4年(1)ア	10	(1) 16				○		55.5	32.9	○	
C 4年(1)ア		(2) 17				○	○	74.1	69.9	○	
C 4年(1)イ	11	(1) 18				○		43.2	30.1	○	
C 4年(1)イ		(2) 19				○		36.0	27.4	○	
C 4年(1)イ	12	20	○		○		☆	59.1	41.1	○	
C 4年(2)イ	13	21		○		○		77.7	71.2	○	
D 4年(4)イ	14	22		○		○		77.9	80.8	○	
D 4年(4)ア	15	(1) 23				○	☆	76.0	69.9	○	
D 4年(4)ア		(2) 24				○		65.5	64.4	○	
D 4年(2)イ	16	25		○				55.5	43.8	○	
D 4年(2)ア	17	26	○	○			☆	66.6	68.5	○	
D 4年(1)ア	18	(1) 27	○	○			☆	65.5	58.9	○	
D 4年(1)ア		(2) 28		○			☆	38.8	30.1	○	

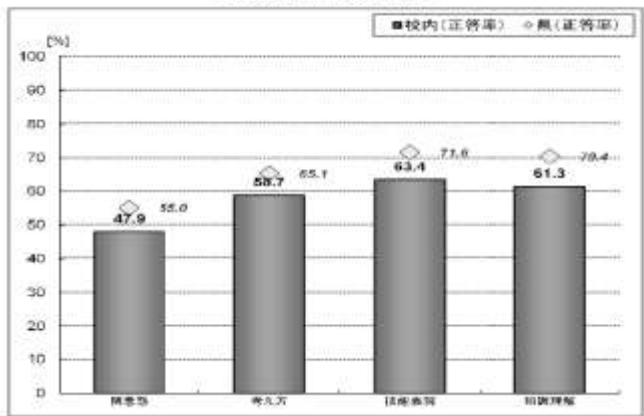
○内容別正答率の分布状況一覧

○観点別正答率の分布状況一覧

《内容別正答率の分布状況》



《観点別正答率の分布状況》



【課題】

- ・「図形」領域が極端に劣る。「数と計算」領域も劣る。 <※別紙の具体的問題を参照>
- ・小数のひき算
- ・ $\times 10$ $\times 100$ $\div 10$ $\div 100$ の時の位の移動
- ・分数の基本(□つけた○つ分) ・数直線の読み取り
- ・図形の性質(並行、対角線) ・三角定規やコンパスでの確かめ
- ・面積の単位(量感 1cm 1m $\cdot\cdot$ 1cm² 1m² 1km²)
- ・概算 四捨五入

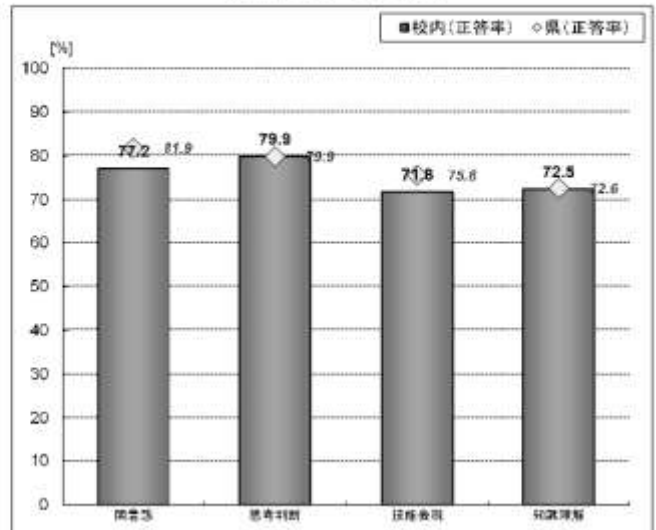
【対策】

- ・図形 $\cdot\cdot\cdot$ 三角定規、分度器、コンパスをあてて確かめる習慣を身につけさせる。(計測するだけではない)
- ・線を加える $\cdot\cdot$ 延長線、対角線を自分で描き加えられる児童に育てる。
- ・数直線 $\cdot\cdot\cdot$ 課題解決の方略として使えるように教師がねらいをもって、意図的に繰り返し指導する。 ○の図 \rightarrow 線分図 \rightarrow 数直線
- ・量と測定 $\cdot\cdot\cdot$ 量感を重視する。
- ・自分の解決方法や考えを記述させる。
- ・長期休業明けの一斉テストを実施する。(1月)
- ・正答率の低かった問題にもう一度挑戦(宿題、朝のスタディ)

【社会】		説明別・観点別正答率									
学習指導要領の内容	問題番号	通番	評価の観点				記述式	県正答率	本校正答率	グラフ	
			1	2	3	4					
3,4年 (1)	1	(1)	1					56.5	58.9	○	
3,4年 (1)		(2)	2					91.1	94.5	○	
3,4年 (1)		(3)	3					75.5	72.6	○	
3,4年 (4)	2	(1)	4					88.4	84.9	○	
3,4年 (4)		(2)	5					87.2	90.8	○	
3,4年 (4)		(3)	6					94.5	91.8	○	
3,4年 (3)	3	(1)	7					61.1	53.4	○	
3,4年 (3)		(2)	8					75.2	72.6	○	
3,4年 (3)		(3)	9	○				☆ 75.9	64.4	○	
3,4年 (2)	4	(1)	10					88.0	86.3	○	
3,4年 (2)		(2)	11					85.3	79.5	○	
3,4年 (2)		(3)	12					80.0	78.1	○	
3,4年 (5)	5	(1)	13					67.7	83.6	○	
3,4年 (5)		(2)	14					83.2	83.6	○	
3,4年 (5)		(3)	15	○				85.5	82.2	○	
3,4年 (6)	6	(1)	16					51.9	52.1	○	
3,4年 (6)		(2)	17					☆ 47.9	34.2	○	
3,4年 (6)		(3)	18	○				84.3	84.9	○	
3,4年 (6)		(4)	19					75.9	71.2	○	
3,4年 (6)		(5)	20					76.7	87.7	○	

○内容別正答率の分布状況一覧
○観点別正答率の分布状況一覧

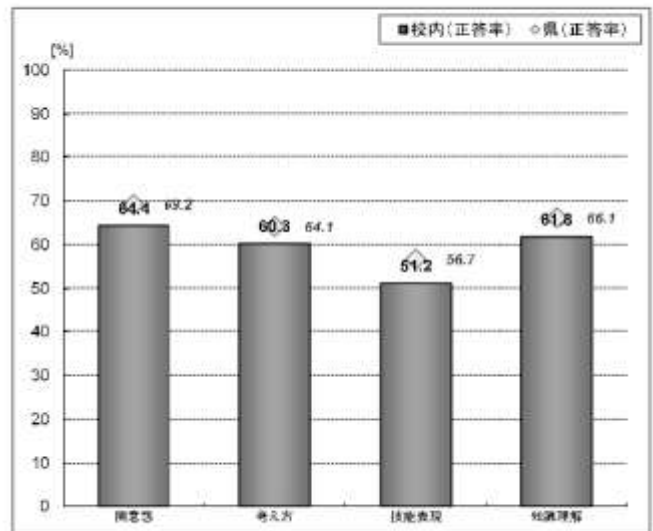
《観点別正答率の分布状況》



【理科】		説明別・観点別正答率									
学習指導要領の内容	問題番号	通番	評価の観点				記述式	県正答率	本校正答率	グラフ	
			1	2	3	4					
B 4年(2)イ	1	1	○					86.2	83.6	○	
B 3年(1)ア	2	(1)	2					51.7	39.7	○	
B 3年(1)ア		(2)	3					☆ 54.4	45.2	○	
B 4年(2)イ	3	4	○					86.1	84.9	○	
B 4年(3)ア	4	5						41.4	42.5	○	
B 4年(3)イ	5	6						78.3	69.9	○	
B 3年(3)ア	6	(1)	7					55.3	45.2	○	
B 3年(3)ア		(2)	8					48.5	43.1	○	
B 4年(3)イ	7	9	○					59.8	52.1	○	
B 4年(4)ア	8	10						60.0	60.3	○	
A 3年(4)ア	9	11						83.1	79.1	○	
A 3年(3)イ	10	(1)	12					87.6	91.8	○	
A 3年(3)イ		(2)	13					79.2	71.2	○	
A 3年(1)イ	11	14						35.7	28.8	○	
A 3年(2)ア	12	15						82.4	84.9	○	
A 4年(3)ア	13	(1)	16					53.2	53.4	○	
A 4年(3)ア		(2)	17					67.1	64.4	○	
A 4年(2)イ	14	18						56.7	47.9	○	
A 4年(2)ウ	15	19	○					☆ 76.7	71.2	○	
A 4年(2)ア	16	20						54.5	43.9	○	
A 4年(2)ア	17	21	○					66.5	74.0	○	

○内容別正答率の分布状況一覧
○観点別正答率の分布状況一覧

《観点別正答率の分布状況》



【課題】

- ・社会 資料の読み取り 比較
- ・理科 実験（条件、何のための実験か、実験結果から結論を導き出す）

【対策】

- ・教科書のグラフや資料を重視（変化の読み取り、比較、2つの資料を関連づける）
- ・ノートを丁寧に取る。
- ・「話形」をたいせつにする。・・・だから・・・だと言える。・・・になれば・・・と言える。
- ・理科室に学習の手順と話形を掲示

～質問紙から～

【課題】

- ・「みんなの前で意見をはっきり言える」「授業でわからないところを先生に尋ねる」

【対策】

- ・ペアー学習、グループ学習を積極的に導入する。
- ・何でも言える学級づくりに努める。
- ・教師の待つ姿勢 一方的に授業を進めない。（確かめる、質問を受け付ける姿勢）